

氏名： 柴 真理子  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 教授  
学位： 博士（学術）（お茶の水女子大学 1996） / Ph.D  
専門分野： 舞踊学・舞踊教育学 / Dance Research and Dance Education  
E-mail： shiba.mariko@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

舞踊行動時の脳活動（光トポグラフィー） / 舞踊運動の体感 / 感性的コミュニケーション / 舞踊教育 / ダンスセラピー

brainfunction measurement of dance behavior (NIRS) / bodily sensation of dance movement / KANSEI communication / dance education / dance therapy

#### ◆主要業績

総数（7）件

- ・『NIRS 計測からみた舞踊行動と脳活動の関係—舞踊の見方を中心に』  
“表現文化研究 第9巻第1号 29年度 神戸大学表現文化研究会 pp.89-1. 29.11.  
Brain Function during Watching, Performing, Imagining the Dance Measured by NIRS (共著)
- ・『NIRS 計測からみた舞踊の見方と脳活動の関係』  
第11回日本光脳機能イメージング研究会  
第11回日本光脳機能イメージング研究会抄録集 p32. 29.7. (共著)
- ・『モーション・メディアとしての舞踊—身体表現のプロセスが伝えるもの—』  
計測と制御 vol.48, no.6 pp.489-494. 29.6. (社)計測自動制御学会 (共著)
- ・『近赤外線光トポグラフィを用いた舞踊の創作活動中の脳機能計測』第61回舞踊学会  
第61回舞踊学会大会研究発表抄録集 p.24. 29.12.
- ・『歩行データベース作成および歩行パターン分析に関する研究』第3章 歩行の美しさに関する分析  
フィールドワーク共同調査開発成果報告書（オムロンヘルスケア）第1年度 pp.12-24. 29.1. (共著)

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

2009年度の研究内容は次の3つに大別できる。

1、28年に引き続き、自治医科大学の渡辺英寿教授（脳神経外科学）と共同で、舞踊の創作活動中、及び、鑑賞中の脳活動を計測し、創作、鑑賞中の脳活動の特性をみ、その成果を学会で発表、また論文としてまとめた。

2、29年度から3年間、舞踊運動の体感による異文化理解をテーマに科研費を得た。初年度である29年度は、お茶大と韓国芸術総合大学舞踊科教授が、6つの基本感情の舞踊運動を策定してDVD作成。それを実験材料に日本人、韓国人の舞踊専攻生を被験者にそれらの舞踊運動を踊っての体感実験を実施した。

3、財団法人理工学振興会から奨学寄附金を得て、東京工業大学三宅准教授、オムロンのスタッフと、舞踊専攻生を被験者に「美しい歩行」に関する実験を実施し、そこから「美しい歩行」の定義を試みた。報告書としてまとめた。

加えて、実践的研究として精神病院でのダンスセラピーのセッションを継続中。

1.” Brain function during creating, performing and watching the dance measured by NIRS.”

This study is joint research with Eiju Watanabe who is a professor and chairman of department of neurosurgery, Jichi medical university.

2. Bodily sensation of dance movement between Japanese and South Korean dance student.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

「人間はなぜ踊るのか？」という問題を考えることから、人間にアプローチし、人間についての理解を深める。そのために、「舞踊と人間形成」を中心テーマに据え、文化として確立した舞踊のみならず、舞踊の根源である無意識的・意識的身体表現をも視野にいれ、人間の個性や創造性が生きた「身体と身体の動き」による豊かな表現がどのようなコミュニケーションを生み出し、まだそのようなコミュニケーションは人間形成とどのような関係にあるのかを考えていく。

人間の原初的な表現行為である身体表現を基盤に、より高次の精神・身体活動である舞踊の構造・機能を社会的・文化的文脈から捉え、更に、そのような舞踊と人間の係わりが学校・病院・舞台等の様々な臨床場面どのように現れるのかを具体的な事例に即して（例えば、振付家と踊り手との関係、踊り手と鑑賞者の関係、教師と子どもの関係等）学んでいく。そして、様々な臨床場面におけるその舞踊活動の内容と方法の検討、その有効性と課題の整理を通して、舞踊活動の意義を考察する。

## ◆メッセージ

本学には、日本の国立法科大学で唯一、舞踊を専門に学べる舞踊教育学コースがあります。

このコースの特徴は、一方では自ら舞踊作品を創って踊り、他方では舞踊理論を学び、実践と理論が相俟って舞踊の本質を考えるとところにあります。

舞踊と関連領域の書物を読み、また、自分自身の創作活動の記録と舞踊公演やダンスの授業の鑑賞・観察の記録をつける。そのような実践記録の積み重ねと読んだ書物の中から、自分の興味・関心のある研究テーマが浮かびあがってきます。

自らの身体に記憶された舞踊の体験に基づいて適切なことばで舞踊を語ることは、楽しく、また時には苦しいことでもあります。舞踊を語るキーワードを学び、仲間と共に舞踊を語る喜び、議論を繰り返し、他方で舞踊創作体験を重ねる、この両者の循環のなかで舞踊の力が養われるとともに、自己理解、他者理解も深まります。

創り・踊りつつ、自分の舞踊活動に問いを立てそのこたえを探求する、そして、その探求が次の創作への力となる、このダイナミックな循環、この醍醐味を体感しませんか。